



今月のお題

1 学期を振り返り、保育を再検討

インクルーシブな保育を実現することは、子ども主体の保育の実現と重なります。個々の子どもが実現したいことを保育の中核にすることで、子どもの声に耳を傾け、環境を再構成するなど、遊びが充実し、継続していきます。障害のある子どもも、このような保育に安心感をもつことが可能となります。その具現化のために1学期を振り返り、自園の保育を検討してみましょう。

見直しの視点

子どもの思いや声を大切にする

子どもの思いや声を大切にしていますか。保育の計画や実践、環境構成は子どもの思いから出発します。このことが実現できると、保育者の子どもの見方に変化が生まれることが多くあります。子どもの姿が肯定的に見えてくることが大切です。

書式の変更も柔軟に

計画のあり方は子どもをベースにすることで柔軟性が強くなっていきます。しなければならないこと、与えることを中核に据えるのではなく、やってみたいことを中核にする場合は書式の変更が必要になる場合もあります。

プロセス重視の記録を意識

計画の見直しとともに「記録」についても見直しが必要な場合があります。既にドキュメンテーション型の記録を実践している場合でも「〇〇をしました。」という記録から「〇〇を通じて学びが生まれました。」というプロセス重視の記録を意識しましょう。